

平成13年度 和歌山県文化賞

つじ はら のぼる
辻 原 登 (本名 村上 博)

住 所：神奈川県横浜市

出 身 地：和歌山県日高郡印南町

生 年：昭和20年

■現在

東海大学文学部教授

■主な表彰歴等

平成2年 第103回芥川賞

平成2年 和歌山県文化奨励賞

平成11年 第50回読売文学賞

平成12年 第36回谷崎潤一郎賞

◎業績及び経歴

昭和20年に印南町に生まれた氏は、和歌山大学学芸部(現教育学部)附属中学校を卒業。大阪学芸大学(現大阪教育大学)附属高校(天王寺校舎)を卒業後、上京し、文学同人誌、第2次「文學共和国」に参加。昭和60年、「犬かけて」が第94回芥川賞候補となる。平成2年、「村の名前」で第103回芥川賞を受賞。

平成11年、『翔べ麒麟』(読売新聞朝刊連載小説、読売新聞社刊)で第50回読売文学賞を受賞。

平成12年、『遊動亭円木』(文藝春秋刊)で第36回谷崎潤一郎賞を受賞。

平成12年4月より1年間、日経新聞(朝刊)に「発熱」を連載。平成13年6月『発熱』上・下巻を日経新聞社より刊行。

その他に『百合の心』『森林書』『だれのものでもない悲しみ』『家族写真』『マノンの肉体』『黒髪』など著書多数。いずれも高い評価を受けている。日本を代表する小説家として、氏は本県の誇りである。

又、東海大学文学部文芸創作学科で小説の創作方法について教鞭もとる。